

創星会

題字：星 猛 元静岡県立大学学長

発行者 創星会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

(静岡県立大学内)

(食品栄養科学部 公衆栄養学研究室)

TEL: 054-264-5832

HP: http://www.geocities.co.jp/us_souseikai/

E-mail: souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp

★創星会とは★

静岡県立大学食品栄養科学部および大学院食品栄養科学専攻の卒業生・修了生と教員からなる会です。創立は平成7年11月4日で、現在会員数は約1,900名となりました。本会は、会員相互の連絡協調および会員と母校との連絡をとりまとめ、会員や母校の発展のために活動しております。「創星会」という名称は、本学部の獨創性を反映させ、また、卒業生の中からスターとなるような人物を生み出したいという思いから、諸先生方が命名してくださいました。

ご挨拶

静岡県立大学学長 鬼頭 宏



「新しい天体」を求めて

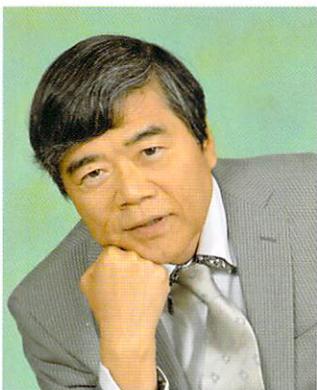
創星会の皆様、はじめまして。今年4月より、学長に就任いたしました。どうぞよろしくお見知りおきください。

食品栄養科学部、大学院食品栄養科学専攻の研究に、わたしはとりわけ親近感を持っています。というのも、わたしの専攻が歴史人口学だからです。近代的な人口動態統計やセンサスが行われるより前の時代の社会が研究対象になります。わたし自身は、宗門人別改帳や妊婦を調査した懐妊書上帳、あるいは過去帳などを利用して、江戸時代の人口動態の解明を行ってきました。またそれとは別に、縄文時代以降の地域人口推計も試みてきました。

一連の研究から、人口規模、出生力、寿命を決める要因として、生態環境や食生活が強く影響していたことを知らされました。近代でも例外ではありません。年齢別死亡率、寿命はもとより、体位などの身体状況にも食生活が左右していることは周知の事柄です。

「創星会」という名称には、スターとなる人物を生み出したいという願いが込められているとのことですが、もうひとつ思い出すことがあります。ブリオッシュに紅茶風味のシロップを染み込ませたフランスの焼菓子を、サヴァランと呼びますが、その名の由来になったブリア＝サヴァランは、『美味礼賛』のなかで次のように言っています。「新しいご馳走の発見は、人類の幸福にとって、天体の発見以上のものだ」。この言葉に基づいて、開高健は『新しい天体』を書きました。みなさんのなかから、新しい天体を発見するスターが、次々に生まれることを楽しみにしています。

静岡県立大学副学長 小林 裕和



考える人？

車の免許証の写真は正面から撮られた無表情なものであって、実物に劣る。それが嫌いで、顎に指を持っていった仕草で写真を撮った。セーラームーンの再人気のせいかな、本学部の女子学生が真似をする。そこで今度は、隣の美術館にあるロダンの「考える人」のポーズをとってみた（左の写真）。思考は人間に与えられた特権であろう。

2005年から10年間に渡り、専攻長、研究科長、研究院長・学府長を担当させていただき、部局の活性化の方策を考えた。今年度からは、副学長として、大学のそれを考える立場となった。鬼頭宏学長に本職を依頼され、自分は研究をしたいと申し上げたところ、兼務なので研究をしていいといわれたので引き受けた。鬼頭学長とは、大学感において共通の「波長」を感じる。大学は、自然界の摂理の追求を基盤にしたアカデミックな活動を行い、後人を育てる場であろう。しかしながら、厳しい経済状況の下、また少子化の煽り、大学の舵取りは容易ではない。大学の構成員の一人一人から湧き上がるモチベーションを活力とさせていただく以外に、この難局を乗り切るすべはないように考える。また、米国の大学のように、同窓生が大学を活用し、大学は同窓生から支援を得るといような連携の成熟も重要と考える。

食品栄養科学部長 合田 敏尚



同窓会の皆様には、お元氣でご活躍のことと思います。

食品栄養科学部は29年目を迎え、30周年の記念行事の準備が始まりました。光陰矢の如し、時に追い越されそうになりながら、学部長として2期目を迎えました。環境生命科学科は2年目を迎え、1学年定員70名による講義や実習が盛んに行われています。学部棟は、いつも学生の笑顔に溢れて活気が感じられます。

昨年9月に木苗直秀前学長のご尽力により採択された文部科学省地(知)の拠点(Center of Community; COC)整備事業が、鬼頭宏新学長のもとで本格的な活動を始めました。私は、本学教員としての残りの5年余りの時間を、「しずおかのために出来ること」に力を尽くすことを心に決め、学部長に加えて、COC事業を担う「ふじのくに」みらい共育センター長を引き受けました。本学ホームページのトップ画面右上のバナーcocoraをヒットしてみてください。本COC事業は、「からだ」と「こころ」の健康長寿科学を基盤にして、「地域」における幸福度の高い健康長寿文化を創ることを最終目標としています。そのために必要なのは、次の世代の人々が、学部や専門性を超えてみらいを共に創ろうとする意欲を持つことだということに気づきました。

超高齢社会の将来は決して楽観はできませんが、同窓生の皆様が本気になりさえすれば、周りの人々の力を結集して、みらいを創ることができると思います。皆様方がそれぞれの持ち場で、星として周囲を照らす存在となることを願っています。再加速や方向転換が必要であれば、いつでも扉を叩いてください。本学では、そのような方のために「学び直し塾」を準備しています。

大学院食品栄養環境科学研究院長 熊谷 裕通



本年4月に大学院薬食生命科学総合学府食品栄養環境科学研究院長を拝命いたしました。来年度までの2年間、大学院の発展のために尽力したいと思っております。本研究院は、平成24年に薬食生命科学総合学府が開設されたことに伴い、従来の生活健康科学研究科から発展的に改称設立されました。生活健康科学研究科は、平成3年4月に開設されていますので、来年3月に25周年を迎えることとなります。この25年間で、大学院を巡る状況は大きく変わりました。平成の初めに文部科学省が大学院重点化を打ち出したこともあり、全国的に大学院の定員が増加し、学生数は修士課程、博士課程ともに2~3倍に増加しました。本学でも、食品栄養科学部から修士課程への進学率は約40%に増加してきました。社会のニーズは、創造力関連スキルのある学生を求めて、大学卒から大学院修士課程卒へと移ってきており、修士課程の就職率はほぼ100%を達成しています。一方、博士課程では、全国的に、安定した職に就けた者の割合は半数程度にとどまっております。博士課程への進学への伸び悩みにつながっています。このことは本学も例外ではなく、博士課程の学生の約半数が、留学生ないし社会人学生になっています。今後は、留学生や社会人の受け入れをさらに増やせるよう経済的な援助の拡充や、修士課程へ社会人が入学しやすくなるような工夫なども考えていく必要があると考えています。創星会の方々とは、産学連携や学び直しなどで、今後連携を強くしていければと考えています。大学院運営へのご意見やご希望をお寄せいただければ幸いです。

文部科学省地(知)の拠点(Center of Community;COC)整備事業



ふじのくに「からだ・こころ・地域」の健康を担う人材育成拠点

文部科学省の平成26年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC:Center of Community事業)」に本学のプログラム「ふじのくに「からだ・こころ・地域」の健康を担う人材育成拠点」が採択されました。大学COC事業は、自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援するもので、静岡県では本学が唯一の採択となりました。

教育

- 「しずおか学」の履修
- コミュニティ・ワーク力を持った人材の育成
- ・地域づくりの実践家
- ・地域ヘルスケアリーダー
- ・健康長寿ビジネス起業家

など

研究

- 地域課題にマッチングした地域志向型研究の重点化
- ・静岡型の健康度指標
- ・健康度向上手法
- ・健康なコミュニティ形成手法
- ・地域ヘルスケア事業の評価
- ・健康長寿産業の創成
- ・他職種連携研修事業

など

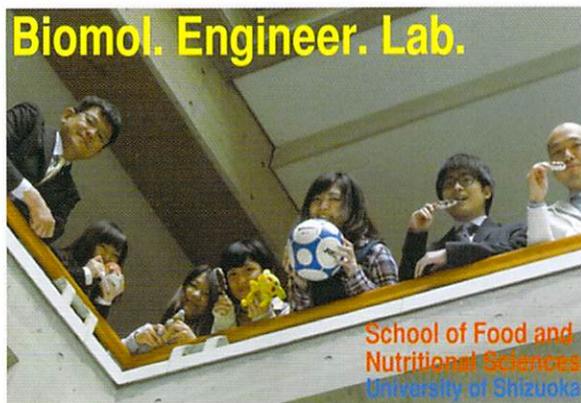
社会貢献

- 健康長寿社会を支える拠点形成と人材育成
- ・「みらい交流サテライト」と共働プラットフォームの連携
- ・「健康長寿ビジネスフェロー」
- ・「地域みらいづくりフェロー」輩出
- ・「しずおか学び直し塾」の企画

など

研究室紹介

■研究室の近況 (生物分子工学研究室 河原崎 泰昌)



平成17年度末(2006年3月)をもってご退職されました竹石桂一先生の後任として、旧遺伝子工学研究室(現生物分子工学研究室)に着任しました。今年ちょうど10年目というところです。静岡県立大学の公立大学法人化(平成19年度)を機に、遺伝子(DNA)取扱い技術を指す「遺伝子工学」から、遺伝子工学に立脚した高度な生体分子解析技術の開発ならびに産業プロセス創造を志向する「生物分子工学」へと研究室名を平成20年度より変更しました。またこの間、平成20年度末に旧遺伝子工学研究室開設以来助手(助教)として勤められてきた堀江信之先生がご栄転され、平成22年度に本学修士課程修了生でもある伊藤圭祐助教を迎えました。学部生20名、修士学生9名が在籍し、卒業・修了後は県内外のメーカーや検査機関等で

活躍中です。平成27年度は、河原崎、伊藤助教に加え、修士学生2名、学部学生3名、企業等からの客員共同研究員7名が在籍しています。今年度は食品蛋白質工学、生化学(長寿生化学)の両研究室と合同のセミナーを始めました。それぞれの分野の最先端研究を紹介し、さらに学部学生も半強制的(?)に質疑応答に参加させて教育研究の質の向上を図っています。

研究面に関しては、酵母や大腸菌などを道具として使い、酵素や蛋白質の機能解析および機能改良を行っています。DNAや蛋白質の調製などの種々の実験手法を現有設備にあわせてローカライズし、HTML化して非公開Webサーバー上で共有しています。学生の卒業論文や修士論文、学会発表のスライドなどもNASに保存して研究の効率化を図っています。学生・教員は、週一回のミーティングで一週間の実験結果を報告し、また半年に一回程度、中間発表という形で研究成果をまとめるようにしています。

その他研究室の近況は、HP (<http://sfns.u-shizuoka-ken.ac.jp/geneng/>) で発信しているほか、フェイスブック (<https://www.facebook.com/biomolengineerlab>) ではイベントの報告などもしておりますので、是非ご覧下さい。

■研究室の近況 (食品衛生学研究室 増田 修一)

当研究室は、静岡県立大学の開学とともに誕生し、2008年まで前任の木苗直秀先生が主任教官をされ、木苗先生がご退官(学長に着任)された2009年より私、増田が主任教官を務めており、2011年より、お茶の水女子大学より鳥村裕子助教が着任しています。現在の研究室の主な研究テーマとして、①食品中に存在する各種化学物質の毒性評価、②食中毒菌の制御に関する研究を行っています。①の内容としては、食品中に存在するアクリルアミド、グリシドール脂肪酸エステルなどの生成機構や遺伝毒性などを評価しており、また、鳥村助教着任後より、②の内容として、食中毒菌に関する研究を進め、食中毒菌の毒素産生や毒素活性を抑制する植物食品の探索等を行っています。さらに、最近、放射性物質の吸収抑制や排泄促進効果を示す食品素材に関する研究も行っており、これら食品の安全性に関する研究を学生は日々実施して成果を出しています。



平成27年度メンバー

また、研究や実験を行うことも重要ですが、当研究室では木苗直秀先生の頃から現在でも、社会人になる上で特に必要な基礎力である「チームで働く力」を養われるような指導を行っています。他の研究室に比べて様々な行事等が多く学生にとっては大変なことではありますが、それらを研究室員全員で取り組んでおり、これらを行うことで研究室でのチームワークや信頼関係が構築でき、学生達は卒業・修了後も定期的に研究室に顔を出してくれています。私は、これからも研究室の学生と友好な関係を築きつつ、さらに彼らの研究成果が学会や論文で発表できるように指導していきたいと考えております。



平成26年度同門会

■研究室の近況 (臨床栄養管理学研究室 新井 英一)

本研究室は県立大学が独立行政法人化された2007年4月に栄養生命科学科第14番目の研究室(当時)として産声をあげ、私自身も赴任して、早9年目を迎えました。学部・修了生を合わせ、のべ30名の学生が巣立ち、病院、企業をはじめ幅広い職場にて、管理栄養士として活躍してくれていることともに、研究室の礎、活性化にご尽力いただきました。改めて、感謝申し上げます。

本研究室は現場の管理栄養士の方々に役立つ「栄養管理法」の構築およびそのエビデンスの構築を目的として研究・教育に従事して参りました。食後高血糖、脂肪肝の治療、予防に有効な「食事組成」や「機能性栄養成分」の評価について動物を用いた基礎研究から、共同研究先の病院にて、栄養指導の効果を評価するヒト試験まで、幅広い研究を実施しています。最近では、加工食品の過剰摂取などで問題となる高リン血症の予防や治療に対して、24時間蓄尿法を用いたリン摂取量の把握や栄養管理に役立つ食事の摂取方法についても取り組んでおり、成果が実って参りました。

これからも生命科学の中心でもある「代謝」研究の面白さを学生たちとともに分かち合い、そして新たな「生命現象」を探求しつづけていきたいと思ひます。いつか臨床の現場(多職種)で活躍する多くの卒業生たちと大規模研究ができることを夢見て。



平成26年度同門会



平成27年度メンバー

■研究室の近況 (生理学研究室 林 久由)

2013年に鈴木裕一教授の後任として、生理学研究室を引き継いでより、日々改めて教育と研究を続けていくことの責任の重さを感じております。

生理学研究室では、これまで初代の星猛教授、2代鈴木裕一教授を経て一貫して行ってきた、消化管の電解質や栄養素の吸収機構を主題として研究を進めております。特に現在では、分子機能から消化管の生理機能を解明することを目指しています。ここ数年間は、小腸上皮細胞間の接着タンパク質である、クロージン15の小腸における生理機能の解明に着目して、クロージン15が欠損した遺伝子改変動物を用いて研究を進めています。この小腸の細胞間の研究については、私自身が学部学生の頃に、実は、星先生も興味をもたれて研究をされていました。その当時は、細胞間の構成タンパク質は全く不明でしたが、小腸細胞間の開き具合が、栄養素吸収で変化するかどうかを、経上皮の交流のインピーダンス変化で同定しようという研究でした。結局、研究自体はうまくいきませんでした。星先生と討論しながら実験装置を作ったりした楽しかった思い出があります。また同じ研究を、今度は私が教員となって学生に指導するというに、非常に感慨深い物があります。私自身がこれまでに鈴木先生から教わったユッシングチャンバー法や、その後修得した分子生物学的技術などを使って、クロージン15の小腸での生理機能を解明しようと、現在、学生と日夜奮闘しています。またこの4月からは、新たに本研究室の修了生の石塚典子助教が加わり、新しい体制で研究を進めることが可能になりました。更に蛍光イメージング技術や、新たな消化管のモデル動物としてオタマジャクシを使った研究を始められています。現在の研究室の学生は、4年生が3名在籍していますが、今後は、引き継いだ生理学研究室を進歩発展させて行きたいと考えています。最後に、卒業生や修了生の皆様の益々のご活躍を期待し、再びお会いできる日を楽しみにしております。



昇進された教員の紹介

桑野 稔子 (教授: 栄養教育学研究室)



創星会の皆さま、こんにちは。皆さまにおかれましては、お元気でご活躍のことと存じます。

私は、2007年4月に静岡県立大学に着任し、2014年12月1日付けで教授に昇進いたしました。着任した際に、本学の研究教育環境から、日本の栄養教育学分野のレベルアップに貢献できたらと思い、栄養教育学研究室の学生の皆さんと共に質の高い研究を志し、進めてまいりました。その成果として、日本の栄養教育学分野の中でも研究レベルの高い研究室の一つとして認識していただけるようになりました。また、研究室の良き理解者である井上広子前助教(2015年4月より東洋大学准教授)と共に議論を交わし研究を行ってきたことや学生教育と一緒に進めることができたことも感謝いたしております。

現在、2016年度の栄養教諭養成スタートに向け(文部科学省申請中)、準備を進めております。創星会の皆さまには、今後とも御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

三浦 進司 (教授: 栄養化学研究室)



2014年12月1日付けで栄養化学研究室内の教授を拝命いたしました。私はこれまで、食事や運動習慣が代謝に及ぼす影響を分子レベルから解明することに取り組んできました。栄養化学分野を担当させていただくことは光栄であるとともに、非常にやりがいのある分野をお任せいただいていると感じております。本学に着任してから3年が過ぎました。何もないところからのスタートでしたが、学内外の先生のご支援や、守田先生のご尽力、所属学生の努力により、ようやく研究が本格的にできるようになりました。これからも学生の期待に添えるように研究を指導するとともに、社会で活躍できる人材の育成に引き続き取り組み、静岡県立大学および食品栄養科学部の発展に少しでも貢献できるよう力を尽くしていく所存でございます。今後とも創星会の皆様のご指導、ご鞭撻、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

谷 晃 (教授: 植物環境研究室)



昨年4月に、環境生命科学科の新設に伴い、旧環境科学研究所から食品栄養科学部に所属換えになりました。静岡県立大学に転勤してから早いもので9年目となりました。研究室の様子は昨年のこの紙面で紹介させていただきました。現在、環境生命科学科では2年次生までが所属しています。私たち環境生命科学科の教員は、複数の新しい講義を一から準備するなど、いささか忙しくしています。でも、学部生の元気でハツラツとした様子を見たり話をする中で、こちらも元気をもらいやりがいを感じています。大事に育てていきたいと思えます。来年はインターンシップ(3年次)、再来年は一期生の就職活動など、企業や社会とますます接点を持っていかなければなりません。卒業生の皆様にもお力添えをいただければ嬉しい限りです。今後とも食品栄養科学部の応援をよろしくお願いいたします。

伊吹 裕子 (教授: 光環境生命科学研究室)



私の研究室のHPのトップページには、-Small Laboratory, but World-Class Research!-という言葉載せています。この言葉通り、小さな研究室でも世界に通用する研究をと、研究室メンバーと毎日切磋琢磨しています。この度、教授に昇格させて頂き、今後は自分の研究室のことだけでなく、食品栄養科学部組織全体のことを視野に入れ、率先して働く立場となったのだなと気持ちを新たにしています。

昨年度、環境生命科学科の第1期生が入学してきました。これまでの研究所での生活とは大きく違い、授業や実習の数が増え大変なことも多いですが、若いエネルギーのある学生さんたちが我々の研究棟を行き来するのを見ると、これからの環境生命科学科に期待が高まります。環境生命科学科に入学して良かったと卒業時に言ってもらえるよう、教育、研究に励み、様々なことを学生さんたちと分かち合っていきたいと思えます。創星会の皆様にはご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新任教員の紹介

原 清敬 (准教授:環境工学研究室)



平成27年6月1日付で環境工学研究室に着任しました原清敬(はらきよたか)と申します。私は、東京工業大学大学院にて、主に好熱菌のATP合成酵素の分子メカニズムの研究を行い、博士(理学)を取得しました。その後は応用分野に転身し、協和発酵工業株式会社(現在の協和発酵バイオ)で3年間、早稲田大学で3年間、神戸大学で6年間、大腸菌や酵母等の微生物を利用したペプチドやカロテノイドなどの有用物質生産の研究を行って参りました。県大では、「マイナスをプラスに変えるバイオプロセスの開発」を合言葉に、県内や海外の未利用バイオマス、特に食品加工残渣や非可食部位を原料に、機能性食品や飼料、肥料等の食と健康に関わるバイオファインケミカルを環境にやさしい方法で発酵生産し、資源価値を高める教育研究を進めて参ります。創星会の皆様には、ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

石塚 典子 (助教:生理学研究室)



平成27年4月1日付で生理学研究室の助教に着任致しました石塚典子と申します。私は本学の卒業生で、卒業研究と修士課程でも生理学研究室に所属しておりました。修士課程修了後は鎌倉女子大学助手(神奈川県)、桐生大学助手(群馬県)、東海学院大学講師(岐阜県)と、いずれも私立の管理栄養士養成課程で勤務して参りました。ご縁あって母校に戻り、学生時代にお世話になった先生方、先輩方と一緒にお仕事できることを大変嬉しく思っています。教育・研究ともにまだまだ未熟ではありますが、学生さんが立派に社会に羽ばたけるように、また、ひとつでも母校の発展に貢献できるように、精一杯取り組んでいく所存です。今後ともご指導ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら創星会の皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

中野 祥吾 (助教:食品蛋白質工学研究室)



平成27年4月1日付で食品蛋白質工学研究室に助教として着任しました中野祥吾と申します。私はこれまでに、産業利用が期待される様々な酵素の機能を、化学の視点から解明する研究を行ってきました。現在はアミノ酸合成酵素を利用した、希少な食品成分の合成法の開発や、データベースから酵素を人工的に設計する手法の開発に取り組んでいます。今後は研究だけでなく、食の専門家を育成する、食品栄養科学部に所属する一員として、教育に励む所存です。研究者、教員としてもまだまだ未熟者ではありますが、少しでも皆様のお役に立てるよう努力いたします。創星会の皆様には、ご指導・ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

ご寄稿ください

創星会会報誌では、皆様からの近況報告等を掲載してまいりたいと考えています。

同期会開催の様子や職場での様子、開発された商品の紹介や会社の宣伝、自ら経営しているお店や著作紹介など何でも結構です。卒業・修了生並びに教員の先生方はもちろん在校生からの活動報告も待っています。

皆様の手でこの創星会を盛り上げていきましょう。

寄稿をご希望の方は、 **E-mailアドレス: souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp** までご連絡下さい。

折り返し創星会事務局担当者よりご連絡いたします。

皆様からのご連絡をお待ちしております。

会計中間報告

(平成27年8月1日現在) 会計 大石 里夏

年月日	項目	収入	支出	残高
	繰越			7,641,613
H27.1. 9	木苗学長・大島先生・丹治先生退官記念品代(振込手数料込)		42,448	7,599,165
H27.1.30	創星会用卒業アルバム代		11,124	7,588,041
H27.1.30	会報・封筒印刷費(東洋プロセス、振込手数料込)		156,060	7,431,981
H27.1.30	郵送料(会報誌送料)		223,085	7,208,896
H27.2. 6	郵送料(会報誌送料)		8,680	7,200,216
H27.2.10	アルバイト代(H26.12~H27.1×1名)		45,760	7,154,456
H27.2.12	木苗学長感謝のつどい寄付		150,000	7,004,456
H27.2.19	木苗学長・大島先生・丹治先生退官記念花束代		16,200	6,988,256
H27.2.19	木苗学長感謝のつどい創星会会員参加者負担金 12名		24,000	6,964,256
H27.3.30	井上先生・石井先生ご栄転祝い花束代(振込手数料込)		10,908	6,953,348
H27.3.30	ボールペン、テブラテープ		6,653	6,946,695
H27.4. 1	利子(H27.4.1)	884		6,947,579
H27.5. 8	H27年度学部生入学時同窓会費	2,789,856		9,737,435
H27.5.20	ホームページ月管理費(H27.6~28.5)(振込手数料込)		18,416	9,719,019
H27.6. 3	アルバイト代(H27.2~H27.5×1名)		22,604	9,696,415
H27.7. 8	アルバイト代(H27.6×1名)		38,916	9,657,499
H27.7. 8	郵送料(簡易書留)		450	9,657,049
H27.7.21	はばたき寄金へ寄付		20,000	9,637,049

創星会総会のご案内

第11回創星会総会・懇親会を開催いたします。今回は、総会・卒業生による講演、懇親会の2部構成にて開催いたします。在校生及び卒業・修了生の多数の皆様のご参加をお待ちしております。

- 場所：静岡グランドホテル中島屋 静岡市葵区紺屋町3-10
TEL:054-253-1151
- 日時：平成27年11月7日(土)

第1部 総会及び卒業生による講演会	
14:30 ~	受付
15:00 ~ 17:00	講演会
第2部 懇親会	
17:00 ~	受付
17:30 ~ 19:30	懇親会

- 会費：一般 4,000円
学生 1,000円(静岡県立大学在校生含む)



住所等変更登録、創星会メーリングリストへの登録のお願い

【住所を教えてください】

創星会会報を送付した際に、返送される場合が多数ございます。住所や名字等の変更がございましたら、創星会HPのトップページに「連絡先の登録・変更」欄を設けておりますので、そちらから変更登録をお願いします。

なお、ご登録の際、確認メールが折り返し送信されます。メールが届かない場合がございますのでメール拒否設定の解除(souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp)を行ってからご登録の変更をお願いします。

【メーリングリストにご登録下さい】

創星会メーリングリストを立ち上げております。学内情報、講演会情報、就職情報等、有用な情報を発信してまいりますので、是非ご登録下さい(携帯メールアドレス、PCメールアドレス、いずれでも登録可)。

創星会HPの「連絡先の登録・変更」欄から登録できます。